

『平成27年度 教育委員会活動状況・点検評価』の有識者評価

期 日 平成28年6月3日(金)

会 場 町民会館3階 第1会議室

1 参加者

<評価委員>

1	岐阜大学名誉教授	岩田 恵司 様
2	静岡大学准教授	藤井 基貴 様

<教育委員会参加者>

1	教育長	瀬瀬 政昭
2	教育課長	嶋崎 恒典
3	教育主幹	渡邊 正博
4	給食センター事務長	藤井 篤
5	学校教育係長	今井 秀明
6	子育て支援係長	今井 芳美
7	生涯学習係長	加藤 博史
8	社会教育指導監	瀬瀬 守章

2 教育委員会事務局から活動状況説明 (教育長・教育主幹)

3 評価・指導

【岩田委員から】

◇昨年は、蘇原小の子どもたちの姿を見た。今年は、白川中を参観した。生徒が元気いっぱい。先生が元気いっぱいな姿を見た。それが素晴らしい。

◇教育委員会の活動は、まず、教育長が夢を語る。語り続ける。相手の考えを聴きながら、場合によっては毅然とした態度で、夢を語り続ける。これが大切であり、実践されている。

◇今後、体力づくり運動に取り組んではどうか。気力・知力も体力がなくては伸びない。健康寿命を延ばす。一億総活躍社会と言われるが、体力が必要である。

◇弱者を定義つけない社会になっていくことが大事だと考える。どんな人もどんな状況でも、その時、自分ができることをやる。それが望まれている。

例えば、障がいがある児童が特別支援学校に入学した。すると、この子は「助けられる子」、この子のところへ行く子は「助ける子」という関係になる。これはダメだ。体は動かない、でも、できることがある。「ありがとう」が言える。「ありがとう」という気持ちを相手に伝えると、相手は「あなたから「ありがとう」と言われると、うれしくなると言う。ならば、私ができるこ

とは「ありがとう」を言うことだ。「ありがとう」が言える社会をつくる
ことが大切。「弱者を定義つけない社会」を白川町から発信してはどうか。

◇例えば、みんなで作物をつくる。子どもも、大人も、障がいをもった人も、
高齢者も集まって作物をつくる。このとき、「負けない商品」をつくること
大事になる。「障がいがある方がつくったものだから・・・」ではなく、“ま
けない商品”をめざす、つくることが大事である。良い物をつくる、それが
“活気”につながる。

【藤井委員から】

※フィンランドの教育の話から

フィンランドでは、子どもが将来なりたい仕事は「教師」であり、社会的信
頼がある。「教師は、国民のろうそく」という言葉がある。ろうそくには「道
を照らす」「やる気に灯をつける」などの意味が想像できる。さらに、ろう
そくは「燃え尽きてはいけない」持続可能でなくいてはいけない。

※ジョン・デューイは「教育の目的は、各人が自己の教育を継続できるように
することである」と言っている。デューイは自己成長を提案している。

◇近年の白川町教育の特色・重点は大きく次の2点だと受け止めた。

①読書教育（リテラシー）

②特別支援教育（インクルーシブ）

＋少人数指導，アクティブ・ラーニングの導入

（ティーチングからラーニングへ）

これは、未来の日本の教育を先取りする先駆的な取組である。

これを総合する器（グランドデザイン）をつくることはできないだろうか。

◇近年の日本における教育課題は、次の5点だと考えている。

1 持続可能な教育活動の体制づくり

（得意な先生が異動しても活動は続けられる仕組みづくり）

2 教育資源（学校・地域・行政）の有効活用

3 学力の3要素（①知識・技能，②思考力・判断力・表現力，③主体的に
学習に取り組む態度）の総合化

4 すべての教員が参加できる教育活動

5 学校経営の視点に基づいた取組

◇世界の教育のトレンドは、次の3点だと考えている。

1 他律から自律へ

2 ティーチングからラーニングへ

3 コンテンツからコンピテンシーへ

「コンピテンシー（能力）」とは、単なる知識や技能だけではなく、

技能や態度を含む様々な心理的・社会的なリソースを活用して、特定の文脈の中で複雑な要求（課題）に対応することができる力。

◇OECD：経済協力開発機構（2003）のキーコンピテンシーとは、

- ・自律的に活動する
- ・異質な集団で交流する
- ・道具を相互作用的に用いる

とあり、私は、その核心として「思慮深さ」があると考えている。

◇ここ2年間にこの会で議論されてきたことを次のように整理した。

2014年は

- ①評価と指導の一体化
- ②選択と集中
- ③多用な教育方法の導入 が話題になった。

2015年は。

- ①縦の継続と横の連携（ラーニング・コミュニティー）
- ②発進力の強化（実践を学会などで発表する）
- ③評価研究の推進（パフォーマンス評価：ルーブリックの作成）
- ④児童生徒の自尊感情（志を育てる。他人・社会に役立つ人間）
- ⑤教員の研修の充実

◇今、多くの学校の教育課題は、以下のような現状維持の引力である。

- ①意欲・意識の格差
- ②やめられる無意味な活動はない。
- ③現状で良好なアンケート
- ④分掌による弧業化
- ⑤実績のない変革 VS 実績のある実態

◇以上より、今後のテーマとして、次の5つに着手してはどうか。

- ①持続可能な成長・発展
 - ・ for about（ための）→ through（通した）教育・学習へ
 - ☆「学力の3要素」との関連づけ
- ②地域を巻き込んだ教育活動：持続可能な取組
 - 先生が替わっても、地域が知っている→防災教育はやりやすい
- ③ケアシケアされる集団づくり
- ④教育研究の発信
 - ・実践の省察（コルトハーヘンのALACTモデル）
 - ・道徳教育の充実
- ⑤学校の再組織化・最適化・持続可能化
 - 授業づくり→学校経営・カリキュラムマネジメント